

平成 30 年度（2018 年度）
事業計画書

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

目 次

はじめに.....	1
1. 環境認識.....	1
2. 基本方針.....	1
事業別基本方針.....	3
I. 競技会事業（公益目的事業 1）.....	6
【平成 30 年度の計画概要】.....	6
1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）.....	7
2. 運営環境の整備（公益目的事業 1.2）.....	9
3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）.....	9
4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）.....	10
II. 普及事業（公益目的事業 2）.....	11
【平成 30 年度の計画概要】.....	11
1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）.....	12
2. 講習会の開催（公益目的事業 2.2）.....	13
4. 広報（公益目的事業 2.4）.....	15
5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）.....	16
III. 国際交流事業（公益目的事業 3）.....	17
【平成 30 年度の計画概要】.....	17
1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）.....	18
2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）.....	18
3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）.....	20
4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）.....	20
IV. 公益事業共通.....	21
【平成 30 年度の計画概要】.....	21
V. 収益事業等.....	22
【平成 30 年度の計画概要】.....	22
1. 公認（収益事業等 1）.....	22
2. 商品販売（収益事業等 2）.....	23
VI. 法人・管理部門.....	24
【平成 30 年度の計画概要】.....	24
1. 会員・会友.....	24
2. 組織運営.....	24
3. 常設委員会.....	24
① 企画委員会.....	24
② センター協議委員会.....	24

はじめに

1. 環境認識

昨年度は日本ブリッジ界の明るい未来を象徴するような出来事に恵まれた。6月に韓国・ソウルで開催された第51回 APBF 選手権大会のヤングスター部門（21歳未満）に中学生ペアが大学生とともに日本代表チームとして出場し、本年度中国で開催される世界ユースチーム選手権大会の代表権を獲得した。また8月にフランス・リヨンで開催された第43回世界ブリッジ選手権大会（バミュダボウル）のシニア部門では、日本代表がベスト8進出を果たした。オープン・ウィメン・シニアの3部門を通じて初めての快挙である。さらに同会場で開催された第5回ワールドユースオープンブリッジ選手権大会のジュニア部門（26歳未満）では、大学生チームが準優勝という輝かしい結果を残した。そして11月には JCBL が JOC 準加盟団体として承認され、国際交流事業に対し公的支援が受けられることになった。本年度のアジア大会だけでなく、これからも世界の舞台上で活躍していく日本ブリッジ界にとって非常に心強い味方ができたことになる。

若い世代が活躍を始めた背景には、教育現場での地道な普及活動がある。東京大学でブリッジの授業が開講したのはいまから12年前（平成18年）であるが、本年度も5つの大学で授業が行われる。最近では受講生と大学ブリッジクラブとの交流も盛んであり、仲間内のブリッジだけでなく連盟の公認競技会に出場する学生も多い。それにつれて連盟に新入会する10代、20代も増えてきた。10年以上続けている橋之介くらの功績だけでなく、機内誌のパズル連載やゲームマーケットの体験会出展など、若い世代向けに行ってきた知名度向上や興味喚起の活動もかなりよい影響を与えていると思われる。

連盟がここ数年助成に力を入れている初心者大会は毎回活況を呈し、各センターでも定期的に初心者向け競技会が開催されている。中・上級者が参加するセクショナル以上のゲームでは高齢化の傾向に変わりはなく、課題を残したままであるが、ウィークリーや参加制限のあるゲームにはもう少し若い世代も見受けられる。各クラブやセンターで行われている入門教室では40代前後の女性参加者も少しずつ増えてきた。政府が女性活躍の流れを加速する中、働く女性の新しい趣味として認知されてきたのかもしれない。

以上見たように、日本ブリッジ界に追い風が吹いているようである。本年度は、新しくブリッジを始めようとする入門者から世界を相手に戦うトッププレイヤーまで、すべての愛好者にとって明るい未来が見えてきたと言えるだろう。

2. 基本方針

昨年度の事業計画では、中長期的な課題を①事業基盤：積極的な収益増加策を試行していく、②普及活動：体験教室に参加する人数を増加させ、それにつれて入門講習会に進む割合も向上させていく、③高齢化対応：学生リーグの活性化策など成果が目に見える具体的な施策で対応していく、とした。いずれの課題も一朝一夕に達成できるものではないが、一応の道筋が見えてきたので、本年度は改めて強化策に取り組んでいく。

①事業基盤：本年度はブリッジフェスティバル開催のため赤字となるが、昨年度の黒字と合わせれば収支均衡となる見込みである。国際交流事業で補助金が受給できるため当面マイナス要因はなく、財務状況は順調に推移するものと思われる。直接の収益が公認料依存にならざるを得ない事業構造であることは変わらないが、初心者ゲームに参加しているプレイヤーが MP100 を超えてくると、公認料収入の増加が見込まれる。

②普及活動：本年度も幅広い世代を対象とした新しいプレイヤーを増やす活動に注力していく。昨年度から始めた優待券進呈キャンペーンはそのまま継続する計画であるが、プロモーション型の体験教室は何より「楽しそう」「やってみたい」と思ってもらえるかどうかである。本年度は講師側の満足度も向上するような、より魅力ある体験教室のありかたを改めて検討する。またライトユーザー向けの社交型イベントの支援については、主催者が長期安定的に開催できるような環境作りに協力していく。

③高齢化対応：即効性のある対策はなく、まだまだ若い世代のプレイヤーは数少ない。それでも新人勢は確実に増加しており、やがてベテラン勢を超える存在になっていくはずである。ただせっかく増えてきたユース世代も、大学を卒業して20代後半から30代になると仕事や家庭の用事で忙しくなる。日本ブリッジ界に明るい未来を築くためには、新しく芽生えてきた若いプレイヤーに、このあともどうやってブリッジを続けてもらうようにするかがカギである。

以上を踏まえて、本年度も引き続き業務執行体制の強化、事業の効率化とともに公益に資する事業運営に努め、各事業部の事業計画に沿って計画的に事業を実施する。具体的には次の3点を基本とした活動を行う。

(1) 収益増加

- 本年度の予算編成に関しては、基本的に昨年度の黒字額の範囲内での赤字を計上し、2年度通算での収支均衡予算を目指す。具体的には、昨年度からYehBros杯開催を除外し、ブリッジフェスティバル関連を追加した2億4千万円の事業予算で、最終的には5百万円程度の赤字を見込む。
- 競技会事業においては、会員・会友の高齢化に伴う参加者数の減少を防ぐ競技会運営を検討し、新規プレイヤーの競技会参加定着を図る。初心者の競技会参加頻度が上がり、多くのMPが獲得できるような競技会運営を目指す。

(2) 経費削減

- 本年度は、昨年度実施した事務所賃借スペース削減で管理費が抑制される。人件費については事務局職員の世代交代で減少する方向であるが、次代を担う若手職員の新規採用も具体的な検討時期に来ているため、それに合わせてマニュアル化や作業効率化を図り、無駄を省いて作業の確実性を高めていく。
- 普及事業においては、中期計画に基づいて進めた事業の成果に応じ、それぞれの事業の継続、修正または中止を決定した後、本年度新規事業の実施計画とともに、本年度からの中期計画を改めて策定し、それに基づいて効率的な事業展開を進める。

(3) 将来への投資

- 昨年度、会員・会友数は若干減少したが、その中で若い世代は増加した。この傾向が継続するよう、受講生やブリッジクラブの学生・生徒にとって魅力ある連盟を目指し、センター・クラブのスタッフ、事務局職員のブリッジ愛好者への対応の向上を図る。
- 学生・生徒が卒業後も日常的にブリッジが続けられる環境として、若い世代が気楽に出場できる学生リーグ主催競技会の活性化を図る。そのため、あまり競技会に出られないOBも積極的に参加して一緒に活動していけるような学生リーグ運営を支援する。
- そのほか、新たな形態のブリッジサロンや社交イベントを拡大し、初級プレイヤーにも対象を拡げたさまざまな魅力あふれるプレイ環境を構築していく。

事業別基本方針

I. 競技会事業（公益目的事業 1）

【競技運営】

主催競技会の運営においては、世界各国からも高い評価を受けている大会運営ノウハウを生かして質の高い競技会の提供に努めるとともに、担当ディレクターや参加者からの意見やニーズを収集して問題点や課題の把握に努め、迅速に対応していく。

【ブリッジフェスティバル】

2015年以降ブリッジフェスティバルを隔年開催とした。今年度は2019年2月に開催する。

【競技会の向上】

中長期的な課題として、引き続きよりよい競技機会を広く提供するために競技会の内容の見直しと競技会参加者に対するサービス向上を図る。

【JTOS】

競技会運営管理システムの整備・改善に努める。競技会運営ソフト（JTOS）についてはこれまでJTOS保守グループを組織して保守および新機能の導入を行ってきたが、今後は競技会事業部が継続して保守にあたることとし、使用者のニーズに合わせた新バージョンを随時リリースする。スコア入力システム（ブリッジメイト）の貸与及び導入支援を継続する。

【ディレクター育成】

ディレクター講習会を継続し、競技会運営のレベルアップを図る。本年度は隔年に実施しているナショナルディレクター養成プログラムを実施しない。

【ブリッジの規則改正】

デュプリケートブリッジの規則が10年ぶりに改正され、日本では2018年3月31日から施行された。施行前にブリッジセンターなどで講習会を開催し、会報に改正点の解説を掲載した。施行後の問い合わせなどに対応していく。

II. 普及事業（公益目的事業 2）

【広報活動】

2018年アジア競技大会の公式種目に採用されたことをアピールし、ブリッジの知名度向上と新規プレイヤーの呼び込みに取り組む。2017年度に検討したブリッジ紹介動画の制作を進め、YouTubeなどに公開していく。

【子どもおよびユース】

小学生から高校生を対象とした「橋之介くらぶ」では、四谷・横浜・大船の3会場でブリッジを体験し基礎を学ぶ機会を提供する。ユース支援は高校生から大学生をターゲットとし、講習会や合宿の開催や補助、競技会への誘導、クラブ活動の支援を行う。

【大学でのブリッジ授業の開講】

大学でブリッジ授業を開講し、ブリッジの宣伝と社会的認知度の向上を図る。大学生にブリッジを体験する機会を提供し、ブリッジに理解のある若い世代を確保する。東京大学・早稲田大学・青山学院大学・明治大学・大阪大学でそれぞれ実施する。

【若い成人向けの普及活動】

2017年度にスタートした20～30代が中心の普及活動「社交型ブリッジ」および「ゲーマー向けブリッジ」を支援し、プレイヤーの確保と若い層へのブリッジのアピールを行う。

【普及用コンテンツ】

システムやテキストを選ばない汎用性のある入門用の練習ハンドとその解説を用意し、ブリッジ普及の現場に選択肢として提供していく。

【入門教室】

各センター・クラブと連携し、体験教室や入門コースの参加者の増加を図る。2017年度上期に一定の成果があった「優待券進呈キャンペーン」を2018年度も継続する。

【京阪神の普及活動】

大阪、名古屋における普及活動は、カルチャースクールと連携して一般層の取り込みに力を入れる一方で、若い層は競技会に積極的に誘致してレベルアップにつなげる。

【その他各地域の普及活動】

福岡、札幌、仙台およびその他の全国各地域の普及活動は、広告宣伝への協力や体験教室の開催の支援を行う。地元と連携し、コンテンツの提供および指導ノウハウの共有などの幅広い支援を行う。

【体験イベント】

ブリッジを知らない人にカードを持って体験してもらう場を開催し、ブリッジの宣伝と新規プレイヤーの獲得を行う。国民文化祭、ねりんピック、ゲームマーケット東京・関西、および霞が関子ども見学デーなどに出席する。

【体験教室や講習会等の支援】

センター・クラブ・カルチャースクール・クルーズなどで実施する体験教室や講習会等を支援する。経費負担への助成支援や体験教室に使用する道具類の提供を行う。

【初心者の競技会参加の支援】

初心者に競技の楽しさを感じてもらおうよう、賞品を充実させ初心者競技会への参加を支援する。地方参加者の無償招待をすることで、地方の競技参加層を拡大させる。

III. 国際交流事業（公益目的事業3）

【第18回アジア競技大会】

2018年8月18日から9月2日にかけてジャカルタ（インドネシア）で開催される第18回アジア競技大会にブリッジが採用された。この大会にメン、ウィメン、ミクスト、

スーパーミクストチームを派遣する。昨年 11 月、アジア大会の種目採用に伴い JOC に準加盟団体として認定された。今大会でのメダル獲得を目標とする。

【第 3 回アジアカップ】

本年行われるアジアカップは当初バングラデシュで開催予定であったが、2018 年 6 月にゴア（インド）での開催に変更になった。オープン、ウィメン、ミクスト、スーパーミクスト、シニア各 2 チームを募集し、代表チームを派遣する。また大会に併せて開催される APBF 代表者会議に役員を派遣する。

【世界選手権】

2018 年 9 月 21 日から 10 月 6 日にかけてオーランド（アメリカ）でワールドブリッジシリーズが開催されるが、代表チームの派遣は行わない。各種目の決勝進出者に対して参加料の助成を行う。

【世界ユースチーム選手権】

2017 年の第 51 回 APBF 選手権でヤングスターチームが世界選手権への出場権を獲得したため、2018 年 8 月 8 日から 18 日にかけて蘇州市（中国）で開催される第 17 回世界ユースチーム選手権にヤングスターチームを派遣する。また、2018 年 10 月に徐州市（中国）で開催される世界大学選手権に 2 チーム派遣する。

【東京オリンピック】

2020 年東京オリンピック・パラリンピックにあわせて日本でのマインドスポーツの世界大会開催を目標に関係団体と協議を行い、実現に向けて活動を進めてゆく。

IV. 収益事業等

① 公認事業（収益事業 1）

- 公認事業関連業務は公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターと連携し、より円滑かつ適正な事業運営となるようシステム化、効率化を進めていく。

② 商品販売事業（収益事業 2）

- 在庫管理や販売方法など関連業務の見直しおよび効率化を図る。

V. 法人・管理部門

- 平成 29 年度に続いて本年度も「新入会無料キャンペーン」を継続する。平成 26 年度から 28 年度の無料キャンペーン利用者は無料期間終了後も高い継続率を維持しているため、新入会者の確保を最優先としそのための施策を実施する。
- 新規プレイヤーにとってもより魅力のある連盟を目指し、事務局員のブリッジ愛好者への対応の向上を図る。事務局業務の改善と職員の世代交代の促進に取り組み、マニュアル化を推進する。
- 内部統制力の向上のため、連盟内システムの改善に取り組む。
- 進展する高齢化社会に対応し、弾力性のある事業基盤の構築をめざす。

I. 競技会事業（公益目的事業 1）

【平成 30 年度の計画概要】

(1) 計画概要

本事業は、当連盟自らが質の高い各種ブリッジ競技会を開催することはもとより、ブリッジセンター／クラブまたは個人が開催するものも含め競技会全般の質を維持し、よりよい競技機会を広く提供することを目的とする。この目的に照らして、(1) 競技会の主催、(2) 競技会運営環境の整備、(3) ディレクターの養成の 3 事業を行う。

主催競技会の回数と内容を見直し、本年度は昨年度に引き続き移管したリジョナル 5 競技会のブリッジセンター主催を継続する。

これまで 21 回にわたり毎年開催していたブリッジフェスティバルは、平成 27 年 2 月の開催以降隔年開催とした。今年度は平成 31 年 2 月 19 日から 26 日の日程で、「横浜ブリッジフェスティバル」の名称（仮称）で開催する。

(2) 収支総括	30 予算	29 予算	前年差	備考
経常収益	48,000,000	37,290,000	10,710,000	
経常費用	90,970,000	65,430,000	25,540,000	
経常増減	-42,970,000	-28,140,000	-14,830,000	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	30 予算	29 予算	前年差	備考
1.1 競技会の主催	経常収益	48,000,000	37,290,000	10,710,000	ブリッジフェスティバル開催
	経常費用	68,620,000	41,920,000	26,700,000	
	経常増減	-20,620,000	-4,630,000	-15,990,000	
1.2 競技会運営環境の整備	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,700,000	2,200,000	-500,000	
	経常増減	-1,700,000	-2,200,000	500,000	
1.3 ディレクターの養成	経常収益	0	0	0	
	経常費用	290,000	580,000	-290,000	
	経常増減	-290,000	-580,000	290,000	
1.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	20,360,000	20,730,000	-370,000	
	経常増減	-20,360,000	-20,730,000	370,000	

【事業別計画】

1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）

(1) 計画概要

① 主催競技会（詳細は次ページ表を参照）

- ・ ナショナル及びリジョナル競技会、日本リーグ、社会人 IMP リーグを開催する。
- ・ リジョナル競技会のセンター移管の追加は、今年度は行わない。移管した 5 競技会については、高い運営レベルを維持するよう支援・監督する。
- ・ 地方からの参加者に対する交通費・宿泊費助成、前年度優勝者参加料割引を継続する。

② ブリッジフェスティバル

- ・ 今年度はブリッジフェスティバルを平成 31 年 2 月 19 日から 26 日に開催する。
- ・ パシフィコシリーズ上位 12 名及び地方在住の上位 4 名までを横浜オープンペアに招待する。
- ・ NEC に替わる協賛企業についての交渉などを行うが、協賛企業がない場合も「横浜ブリッジフェスティバル」の名称で開催する。

(2) 収支総括

	30 予算	29 予算	前年差	備考
経常収益	48,000,000	37,290,000	10,710,000	
経常費用	68,620,000	41,920,000	26,700,000	
経常増減	-20,620,000	-4,630,000	-15,990,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	30 予算	29 予算	前年差	備考
主催競技会	前年度並み	経常収益	34,680,000	35,070,000	-390,000	
		経常費用	41,620,000	39,730,000	1,890,000	
		経常増減	-6,940,000	-4,660,000	-2,280,000	
ブリッジフェスティバル	拡大	経常収益	13,320,000	2,220,000	11,100,000	
		経常費用	27,000,000	2,190,000	24,810,000	
		経常増減	-13,680,000	30,000	-13,710,000	

JCBL 主催競技会開催予定表

競技会名	日 程	開催日数	場 所	予定卓数
1) ナショナル競技会(全国大会)				
玉川高島屋 S・C 杯	4 月 14、15 日	2 日	玉川高島屋 S・C/ 四谷 BC	84
全日本地域対抗戦選手権 (関東予選)	5 月 12、13、19、20 日	4 日	四谷 BC	42
藤山杯	7 月 7、8 日	2 日	四谷 BC	48
全日本地域対抗戦選手権 (決勝)	7 月 28、29 日	2 日	グランドホテル 浜松	32
外務大臣杯 (予選・決勝)	8 月 18、19 日	2 日	四谷 BC	30
高松宮記念杯	9 月 15、16、17、 22、23 日	5 日	四谷 BC / 五反田 BS	96
全日本女子ペア選手権 (予選・決勝)	10 月 13、14 日	2 日	四谷 BC	48
高松宮妃記念杯 (予選・決勝)	11 月 3、4 日	2 日	四谷 BC	40
ブルーリボン杯	12 月 22 日	1 日	四谷 BC/名古屋 BC/大阪 BC	90
エンゼル・レッドリボン杯	12 月 22 日	1 日	高田馬場 BC/ 大阪 BC	46
朝日新聞社杯	1 月 12、13、14 日	3 日	四谷 BC/五反田 BS /高田馬場 BC/渋谷 BC	150
2) 日本リーグ				
1 部	前期：4 月・7 月、 後期：12 月・1 月	各 4 日	四谷 BC	16
2 部		各 4 日	四谷 BC	24
3) リジョナル競技会				
柳谷杯	4 月 7、8 日	2 日	四谷 BC/五反田 BS/高田馬場 BC	120
サントリー杯	4 月 28 日	1 日	四谷 BC/名古屋 BC/大阪 BC	90
井上杯 (予選・決勝)	5 月 26、27 日	2 日	四谷 BC	24
井上歌子杯	5 月 27 日	1 日	四谷 BC	32
渡辺杯	3 月 23、24 日	2 日	四谷 BC	44
4) 社会人リーグ				
社会人 IMP リーグ				14

2. 運営環境の整備（公益目的事業 1.2）

(1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。

① 競技会運営管理システム

- 競技会集計ソフト（JTOS）の保守・管理を行い、新形式の競技会に対応する。
- スコア入力システム（ブリッジメイト）の使用方法啓蒙活動、導入支援、貸与を行う。
- 競技会速報システムを改良し使用を推進する。

② 競技会運営環境の整備と維持

- 競技会の規模に応じた競技会場を確保し、運営設備の維持向上に努める。

③ 競技委員会管轄事項

- 上告審理・裁定、公認コンベンションリストの見直し・改正・公表、ディレクター資格の審議・認定、マスターポイント規則の制定・改正を行う。

④ ルール委員会管轄事項

- 「デュプリケートブリッジの規則」及び競技会運営に関わる諸規則・規定の解釈・通知・公表、上告委員会裁定へのさらなる上告の審理・裁定を行う。

(2) 収支総括	30 予算	29 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,700,000	2,200,000	-500,000	
経常増減	-1,700,000	-2,200,000	500,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	30 予算	29 予算	前年差	備考
競技会運営システム	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,450,000	1,450,000	0	
		経常増減	-1,450,000	-1,450,000	0	
競技委員会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	230,000	230,000	0	
		経常増減	-230,000	-230,000	0	
ルール委員会	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	20,000	520,000	-500,000	
		経常増減	-20,000	-520,000	500,000	

3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）

(1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。

① ディレクター講習会

- 例年通り、新人ディレクター育成のための初級ディレクター講習会を、東京で1回、地方で1回開催する。

- ほかに、クラブディレクターを対象とする講習会、及びセクショナルディレクターをめざす方を対象とする講習会を各1回開催する。

② ナショナルディレクター養成プログラム

- 偶数年度である本年度は、ナショナルディレクター養成プログラムを実施しない。ナショナルディレクター希望者に対し実地研修を行う。

(2) 収支総括	30 予算	29 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	290,000	580,000	-290,000	
経常増減	-290,000	-580,000	290,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	30 予算	29 予算	前年差	備考
ディレクター講習会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	90,000	90,000	0	
		経常増減	-90,000	-90,000	0	
ナショナルディレクター養成プログラム	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	200,000	490,000	-290,000	
		経常増減	-200,000	-490,000	290,000	

4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）

(1) 計画概要

競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2) 収支総括	30 予算	29 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	20,360,000	20,730,000	-370,000	
経常増減	-20,360,000	-20,730,000	370,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	30 予算	29 予算	前年差	備考
管理費 競技会事業部	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	20,360,000	20,730,000	-370,000	
		経常増減	-20,360,000	-20,730,000	370,000	

II. 普及事業（公益目的事業 2）

【平成 30 年度の計画概要】

(1) 計画概要

平成 30 年度は小学生から大学生および若い成人向けの普及広報活動に力を入れ、平成 29 年度に見られた若い世代への広がりをもより確かなものとして定着させる。平成 30 年度アジア競技大会で初めて正式種目に採用されたこともあり、メディアを活用しながら認知度の向上に成果をあげる。若いプレイヤーの獲得を目指し、体験イベントを数多く出展する。橋之介くらぶの開催、機内誌のパズル掲載、大学授業、ユース支援などの従来からの活動を継続するほか、若い成人向けの社交型ブリッジやゲーマー向けブリッジを支援する。

体験教室の参加者や入門講習会へ移行する割合を増やす活動に引き続き取り組む。体験教室や入門講習会の告知広告を継続する。体験イベントを開催することにより近隣のセンター・クラブに誘導していくケースを増やす。優待券進呈キャンペーンを継続し口コミによる紹介を活性化させる。

普及事業部全体としては前年並みのコストで展開する。中心的な継続事業である「体験教室や入門講習会の実施支援」、「初心者競技会の支援」は、前年並みの規模で実施し細かい改善を行う。ブリッジを紹介する動画の制作やコンテンツの整備に取り組む。

(2) 収支総括	30 予算	29 予算	前年差	備考
経常収益	120,000	70,000	50,000	
経常費用	48,370,000	47,400,000	970,000	
経常増減	-48,250,000	-47,330,000	-920,000	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	30 予算	29 予算	前年差	備考
2.1 体験イベントの開催	経常収益	120,000	70,000	50,000	
	経常費用	2,260,000	1,730,000	530,000	
	経常増減	-2,140,000	-1,660,000	-480,000	
2.2 講習会等の開催	経常収益	0	0	0	
	経常費用	2,380,000	2,510,000	-130,000	
	経常増減	-2,380,000	-2,510,000	130,000	
2.3 体験教室・講習会等の実施支援	経常収益	0	0	0	
	経常費用	14,480,000	14,950,000	-470,000	
	経常増減	-14,480,000	-14,950,000	470,000	
2.4 広報	経常収益	0	0	0	
	経常費用	6,550,000	6,450,000	100,000	
	経常増減	-6,550,000	-6,450,000	-100,000	
2.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	22,700,000	21,760,000	940,000	
	経常増減	-22,700,000	-21,760,000	-940,000	

【事業別計画】

1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）

(1) 計画概要

ブリッジをよく知らない人々を対象に、気軽に参加でき、ブリッジに対する興味・関心を高めてもらうための各種体験イベントを実施する。

① 未経験者用イベント

・出展予定イベントは、国民文化祭、ねんりんピック、霞が関子ども見学デー、関西ジュニアペア基大会、ゲームマーケット東京・関西。

② 競技会体験イベント

・△100の初心者競技会体験大会を年6回、サロン交流会を年2回開催する。

③ 子ども向け体験イベント（橋之介くらぶイベント）

・体験教室／入門講習会／練習会／競技会を開催し、15名の新入会を目標とする。

(2) 収支総括

	30 予算	29 予算	前年差	備考
経常収益	120,000	70,000	50,000	
経常費用	2,260,000	1,730,000	530,000	
経常増減	-2,140,000	-1,660,000	-480,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	30 予算	29 予算	前年差	備考
文化・教育関連イベント出展 国民文化祭	拡大	経常収益	0	0	0	大分開催
		経常費用	260,000	120,000	140,000	
		経常増減	-260,000	-120,000	-140,000	
文化・教育関連イベント出展 ねんりんピック	前年度並み	経常収益	0	0	0	富山開催
		経常費用	160,000	160,000	0	
		経常増減	-160,000	-160,000	0	
文化・教育関連イベント出展 その他のイベント	拡大	経常収益	0	0	0	
		経常費用	650,000	540,000	110,000	
		経常増減	-650,000	-540,000	-110,000	
一般向け体験イベント フェスタ体験教室	従来通り	経常収益	0	0	0	ブリッジフェスティバル 開催
		経常費用	130,000	0	130,000	
		経常増減	-130,000	0	-130,000	
一般向け体験イベント 初心者大会開催	前年度並み	経常収益	50,000	0	50,000	
		経常費用	640,000	550,000	90,000	
		経常増減	-590,000	-550,000	-40,000	
子ども向け体験イベント 橋之介くらぶ運営	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	20,000	20,000	0	
		経常増減	-20,000	-20,000	0	
子ども向け体験イベント 橋之介くらぶ体験イベント	前年度並み	経常収益	70,000	70,000	0	
		経常費用	400,000	340,000	60,000	
		経常増減	-330,000	-270,000	-60,000	

2. 講習会の開催（公益目的事業 2.2）

(1) 計画概要

ブリッジに親しみ、理解を深め、技量を向上させるための講習会を開催する。

① インストラクター講習会

・ブリッジに限定しない一般的なスキルアップのためのインストラクター講習会を年1回開催する。

② ユース向け講習会

・「ユース育成プロジェクト」の一環としてユース向け講習会を開催し、技術向上支援を行う。ユース代表の選考方法を効率化し費用を削減する。

③ プレイヤーズサロンの拡充

・遊びながら上達することを目指すプレイヤーズサロンは、競技会ハンドを使用し競技会のスコアを比較することで競技会を疑似的に体験できる場とし、競技会への興味を喚起する。

④ 入門コンテンツの制作

・普及スタンダードシステムやコンベンションを選ばない汎用性のある入門用の練習ハンドとその解説を作成する。講師が状況に合わせて内容や量を選択できるようにし、各地の普及活動の現場に提供していく。

(2) 収支総括	30 予算	29 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	2,380,000	2,510,000	-130,000	
経常増減	-2,380,000	-2,510,000	130,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	30 予算	29 予算	前年差	備考
ブリッジインストラクター講習会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	270,000	220,000	50,000	
		経常増減	-270,000	-220,000	-50,000	
ユース向け講習会 ユース育成 PJ	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,670,000	1,850,000	-180,000	
		経常増減	-1,670,000	-1,850,000	180,000	
プレイヤーズサロン	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	440,000	440,000	0	
		経常増減	-440,000	-440,000	0	

3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）

(1) 計画概要

体験教室や講習会等を開催する会員・会友や他の団体等に対して、人的支援、金銭的支援、用具や教材の提供及びノウハウの提供を行う。

① 一般支援

- ・各種体験教室・講習会等は、規定の範囲内で講師及びアシスタント料や交通費等を助成する。体験は要請があれば用具・教材の提供や連盟職員の派遣を行うことがある。入門講習会は原則として1期12回までの助成とする。
- ・体験イベント支援や海外クラブ支援は、原則として申請に応じて助成する。
- ・地方クラブ支援は、地方クラブ・センターのそれぞれの課題に応じた支援を行う。

② 教育現場におけるブリッジ講座支援

- ・東京大学、早稲田大学、大阪大学、青山学院大学、明治大学の5大学で授業を開講する。授業の進め方に工夫を凝らし、これまで培った指導法のさらなる発展を目指すとともに学生の理解度を向上させる。

③ 学校・学生支援

- ・学生クラブの活動支援（部員勧誘活動、クラブ立上げ、用具提供）、学生クラブによる他大学の友人・知人へのPR活動推進支援（費用支給）を行う。
- ・学生リーグ主催の学生選手権への参加費用を助成する。

(2) 収支総括

	30 予算	29 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	14,480,000	14,950,000	-470,000	
経常増減	-14,480,000	-14,950,000	470,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	30 予算	29 予算	前年差	備考
普及活動支援 助成規定・海外ク ラブ支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	体験入門紹介キャン ペーン実施
		経常費用	9,100,000	9,400,000	-300,000	
		経常増減	-9,100,000	-9,400,000	300,000	
普及活動支援 地方活性化支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	90,000	90,000	0	
		経常増減	-90,000	-90,000	0	
学校講座支援 大学講座 東京大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師：浅井潔
		経常費用	800,000	800,000	0	
		経常増減	-800,000	-800,000	0	
学校講座支援 大学講座 早稲田大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師：並木亮
		経常費用	1,460,000	1,460,000	0	
		経常増減	-1,460,000	-1,460,000	0	
学校講座支援 大学講座 大阪大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師：大橋正幸
		経常費用	530,000	530,000	0	
		経常増減	-530,000	-530,000	0	

学校講座支援 大学講座 青山学院大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師：島村京子
		経常費用	1,010,000	1,010,000	0	
		経常増減	-1,010,000	-1,010,000	0	
学校講座支援 大学講座 明治大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師：清水映樹
		経常費用	450,000	620,000	-170,000	
		経常増減	-450,000	-620,000	170,000	
学校・学生の普及 活動支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,040,000	1,040,000	0	
		経常増減	-1,040,000	-1,040,000	0	

4. 広報（公益目的事業 2.4）

(1) 計画概要

普及のターゲットごとに最適な広告メディアを選定して PR 活動やプロモーション活動を行う。

① 広報宣伝活動

- ・体験教室、入門講習会開催告知のための全国一斉広告を年 2 回実施する。
- ・ブリッジのルール、初歩の知識、テクニックを扱ったブリッジ紹介動画を制作し、YouTube やホームページ等で公開する。
- ・メディア広告、地域イベント参加やブリッジ図書寄贈などの PR 活動を行う。
- ・機内誌にパズル問題を毎号出稿し、ウェブサイトにて解答・解説を掲載する。
- ・「普及通信」ウェブ版を隔月更新する。
- ・サンケイリビング社のイベントに出展し知名度の向上と入門者の獲得を図る。

② プロモーション活動

- ・オンラインのゲーム環境として、BBO に開設した JCBL 専用ルームを充実させる。
- ・若い成人向けの社交型ブリッジの活動「Light Bridge」を支援し、新しいターゲットを対象とした広報活動の活性化と社交的なブリッジの楽しみ方の追求を目指す。

③ 出版物の刊行

- ・ブリッジをテーマにした小説・マンガの制作と出版を行う。

④ ウェブサイト運営

- ・入門用のコンテンツを整理し、わかりやすく見やすい構成に変更する。

⑤ 広報ツール、プロモーショングッズの作成・配付

- ・広報ツールやパンフレットの企画・開発を行う。プロモーショングッズを必要に応じて製作または購入する。

(2) 収支総括	30 予算	29 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	6,550,000	6,450,000	100,000	
経常増減	-6,550,000	-6,450,000	-100,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	30 予算	29 予算	前年差	備考
広報宣伝活動	前年度並み	経常収益	0	0	0	ブリッジ紹介映像作成
		経常費用	6,000,000	5,900,000	100,000	
		経常増減	-6,000,000	-5,900,000	-100,000	
出版 入門コース教材 作成	前年度並み	経常収益	0	0	0	普及スタンダード、 練習ハンド作成
		経常費用	160,000	160,000	0	
		経常増減	-160,000	-160,000	0	
ウェブサイト JCBL ウェブサイト の運営	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	265,000	265,000	0	
		経常増減	-265,000	-265,000	0	
ウェブサイト 普及通信の編集 発行	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	25,000	25,000	0	
		経常増減	-25,000	-25,000	0	
広報ツールの作 成・配付	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	100,000	100,000	0	
		経常増減	-100,000	-100,000	0	

5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）

(1) 計画概要

- 普及ネットの運営
- 普及に関わる JCBL 公認資格制度確立のための制度設計
- ブリッジインストラクター登録管理と登録証発行（3月）
- 普及事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2) 収支総括	30 予算	29 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	22,700,000	21,760,000	940,000	
経常増減	-22,700,000	-21,760,000	-940,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	30 予算	29 予算	前年差	備考
管理費 普及事業部	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	22,700,000	21,760,000	940,000	
		経常増減	-22,700,000	-21,760,000	-940,000	

III. 国際交流事業（公益目的事業 3）

【平成 30 年度の計画概要】

(1) 計画概要

ブリッジは世界に多くの競技人口を有していることから、ブリッジを通じた国際交流を図ることは、国際親善・国際相互理解促進にとって有意義である。このため、(1)国際競技会の主催、(2)海外競技会への参加支援及び(3)国際的競技団体との交流の 3 事業を行う。

(2) 収支総括

	30 予算	29 予算	前年差	備考
経常収益	1,970,000	24,270,000	-22,300,000	
経常費用	18,040,000	46,540,000	-28,500,000	
経常増減	-16,070,000	-22,270,000	6,200,000	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	30 予算	29 予算	前年差	備考
3.1 国際競技会の主催	経常収益	110,000	23,910,000	-23,800,000	
	経常費用	0	23,760,000	-23,760,000	
	経常増減	110,000	150,000	-40,000	
3.2 国際競技会への参加費用助成	経常収益	1,860,000	360,000	1,500,000	
	経常費用	13,750,000	18,440,000	-4,690,000	
	経常増減	-11,890,000	-18,080,000	6,190,000	
3.3 国際的競技団体との交流	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,230,000	1,150,000	80,000	
	経常増減	-1,230,000	-1,150,000	-80,000	
3.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	3,060,000	3,190,000	-130,000	
	経常増減	-3,060,000	-3,190,000	130,000	

【事業別計画】

1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）

(1) 計画概要

平成 32 年（2020 年）のオリンピック・パラリンピック東京大会に合わせ、日本でのマインドスポーツの国際大会開催を目標に開催資金の積立を行う。

(2) 収支総括	30 予算	29 予算	前年差	備考
経常収益	110,000	23,910,000	-23,800,000	
経常費用	0	23,760,000	-23,760,000	
経常増減	110,000	150,000	-40,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	30 予算	29 予算	前年差	備考
APBF 選手権/コングレス	前年度並み	経常収益	110,000	114,000	-4,000	国際大会開催準備金
		経常費用	0	0	0	受取利息のみ計上
		経常増減	110,000	114,000	-4,000	
Yeh Bros 杯	休止・中止	経常収益	0	23,796,000	-23,796,000	
		経常費用	0	23,760,000	-23,760,000	
		経常増減	0	36,000	-36,000	

2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）

(1) 計画概要

① 日本代表選抜

- 日本代表選抜試合を開催し、平成 30 年 6 月にゴア（インド）で開催予定の第 3 回アジアカップに派遣するメン、ウイメン、ミックス、スーパーミックス、シニア各 2 チームおよび平成 31 年度に開催される第 52 回 APBF 選手権（開催地未定）のオープン、ウイメン、シニア各 1 チームの日本代表を選抜する。遠隔地からの参加者には、交通費と宿泊費を助成する。
- 代表チームの国内競技会参加費及び練習会の費用を助成する。

② 国際競技会派遣

第 3 回アジアカップ

6 月 4 日から 10 日にゴア（インド）で開催される第 3 回アジアカップにメン、ウイメン、ミックス、スーパーミックス、シニア各 2 チームの選手、キャプテンの派遣を行う。

第 18 回アジア競技大会

8 月 18 日から 9 月 2 日にジャカルタ（インドネシア）で開催される第 18 回アジア競技大会にブリッジが採用された。日本からメン、ウイメン、ミクスト、スーパーミクスト各 1 チームおよびメンズペア、ミクストペアの日本代表団を派遣する。派遣費用は JOC から支給される予定。

第 15 回ワールドブリッジシリーズ

9 月 21 日から 10 月 6 日にオランダ（アメリカ）で開催される第 15 回ワールドブリッジシリーズに日本から参加し決勝進出したプレイヤーに参加料の助成を行う。

- 日本代表のユニフォームを作成、代表選手に支給する。

③ 国際競技会派遣（ユース）

本年度は以下の競技会への参加を支援する。

- 第17回世界ユースブリッジチーム選手権（グレードⅠ）
- 世界大学選手権（グレードⅡ）

(2) 収支総括	30 予算	29 予算	前年差	備考
経常収益	1,860,000	360,000	1,500,000	
経常費用	13,750,600	18,440,000	-4,690,000	
経常増減	-11,890,000	-18,080,000	6,190,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	30 予算	29 予算	前年差	備考
日本代表選抜	前年度並み	経常収益	360,000	360,000	0	
		経常費用	1,390,000	1,390,000	0	
		経常増減	-1,030,000	-1,030,000	0	
国際競技会派遣 APBF 選手権/アジアカップ	拡大	経常収益	1,500,000	0	1,500,000	
		経常費用	4,980,000	3,030,000	1,950,000	
		経常増減	-3,480,000	-3,030,000	-450,000	
国際競技会派遣 アジア競技大会 /世界選手権	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	2,650,000	8,810,000	-6,160,000	
		経常増減	-2,650,000	-8,810,000	6,160,000	
国際競技会派遣 その他	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	300,000	300,000	0	
		経常増減	-300,000	-300,000	0	
国際競技会派遣 日本代表ユニフォーム	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	540,000	540,000	0	
		経常増減	-540,000	-540,000	0	
ユース育成プログラム APBF/コングレス派遣	休止・中止	経常収益	0	0	0	
		経常費用	0	2,340,000	-2,340,000	
		経常増減	0	-2,340,000	2,340,000	
ユース育成プログラム 世界選手権派遣	新規	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,810,000	0	1,810,000	
		経常増減	-1,810,000	0	-1,810,000	
ユース育成プログラム 世界選手権/大学選手権	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,480,000	1,430,000	50,000	
		経常増減	-1,480,000	-1,430,000	-50,000	
ユース育成プログラム その他国際 競技会参加支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	600,000	600,000	0	
		経常増減	-600,000	-600,000	0	

3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）

(1) 計画概要

コントラクトブリッジを通じた国際交流を促進するため、本年度は以下の事業を実施する。

① APBF 代表者会議への役員の派遣

- 平成 30 年 6 月にゴア（インド）で開催される APBF 代表者会議に日本からの役員を派遣する。

② 世界同時大会への参加

- 平成 30 年 3 月から 6 月にかけて開催される世界同時大会開催に参加協力する。

③ 海外競技会に参加する会員・会友の支援と海外への情報提供・収集

- ACBL との提携の継続・強化：ACBL 競技会の開催予定情報を提供する。
- APBF 加盟国・地域における競技会開催情報を提供する。
- WBF 加盟国・地域における競技会開催情報を提供する。

④ JCBL ウェブサイトの活用

連盟サイトを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連サイトから情報を収集し、会員に提供する。

(2) 収支総括	30 予算	29 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,230,000	1,150,000	80,000	
経常増減	-1,230,000	-1,150,000	-80,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	30 予算	29 予算	前年差	備考
国際的競技団体との交流	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,230,000	1,150,000	80,000	
		経常増減	-1,230,000	-1,150,000	-80,000	

4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）

(1) 計画概要

国際交流事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2) 収支総括	30 予算	29 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	3,060,000	3,190,000	-130,000	
経常増減	-3,060,000	-3,190,000	130,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	30 予算	29 予算	前年差	備考
管理費 国際交流事業部	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	3,060,000	3,190,000	-130,000	
		経常増減	-3,060,000	-3,190,000	130,000	

IV. 公益事業共通

【平成 30 年度の計画概要】

(1) 計画概要

基本財産運用益及び会費収入の 50%を公益事業及び法人会計にそれぞれ繰り入れ、公益事業活動の原資とする。

(2) 収支総括	30 予算	29 予算	前年差	備考
経常収益	17,010,000	17,010,000	0	
経常費用	0	0	0	
経常増減	17,010,000	17,010,000	0	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	30 予算	29 予算	前年差	備考
公益事業共通	前年度並み!	経常収益	17,010,000	17,010,000	0	
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	17,010,000	17,010,000	0	

V. 収益事業等

【平成 30 年度の計画概要】

(1) 計画概要

公認事業は競技会事業部が、商品販売事業は事務局が担当する。

(2) 収支総括	30 予算	29 予算	前年差	備考
経常収益	154,210,000	154,210,000	0	
経常費用	37,850,000	37,960,000	-110,000	
経常増減	116,360,000	116,250,000	110,000	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	30 予算	29 予算	前年差	備考
1 公認	経常収益	134,110,000	134,110,000	0	
	経常費用	20,520,000	20,610,000	-90,000	
	経常増減	113,590,000	113,500,000	90,000	
2 商品販売	経常収益	20,100,000	20,100,000	0	
	経常費用	17,330,000	17,350,000	-20,000	
	経常増減	2,770,000	2,750,000	20,000	

【事業別計画】

1. 公認（収益事業等 1）

(1) 計画概要

「公認クラブとブリッジセンターに関する規則」に定める条件を満たしブリッジの普及に努める団体を公認クラブ及び公認ブリッジセンターとして承認し、その活動を支援するとともに、同規則その他当連盟の定める諸規程に基づいてこれらの団体が開催する競技会を公認競技会として承認する。公認競技会における各競技者の成績は、公式な成績としてマスターポイントを発行し、記録・管理する。

公認事業関連業務の見直しを行い、システム化と効率化を図る。

「センター協議委員会」を中心に公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターとの協議を継続し、公認料制度の見直しを含め、ブリッジの普及と発展に資する公認制度の在り方を検討していく。

収益事業等 1.1 競技会の公認

① クラブ・センター主催競技会の公認

- ・ ナショナル、リジョナル、セクショナル、ローカル、CCG、IMP リーグ、ウィークリーゲームを公認する。
- ・ ナショナル、リジョナル、セクショナル、IMP リーグの公認料率は参加料の 22%を継続する。ブリッジセンターについては平成 28 年度の普及活動実施状況により、平成 29 年度の公認料率を決定する。
- ・ ユースプレイヤーに対する競技会参加料割引を実施する。

② マスターポイントの認定・管理

- ・ マスターポイントの集計・発行及びマスター位の認定を行う。

収益事業等 1.2 ブリッジクラブの公認と育成

① ブリッジクラブの公認と育成

- ・ ブリッジクラブ及びブリッジセンターを公認する。
- ・ 浜松リジョナルにあわせて地方クラブ会議を開催し、地方クラブの意見やニーズの把握に努める。また、会議に出席する地方クラブ代表に対する参加費用の支援を行う。
- ・ 「常設会場運営のためのサービス・ガイドライン」の運用、「ゲーム環境に係わるサービス向上のための意見書」対応、「緊急連絡システム」の運営、AED 設置及びバリアフリー工事支援事業を行う。

② 競技会開催支援

- ・ 地方リジョナル開催時のディレクター派遣費用の支援を行う。

(2) 収支総括	30 予算	29 予算	前年差	備考
経常収益	134,110,000	134,110,000	0	
経常費用	20,520,000	20,610,000	-90,000	
経常増減	113,590,000	113,500,000	90,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	30 予算	29 予算	前年差	備考
競技会の公認	前年度並み	経常収益	134,110,000	134,110,000	0	
		経常費用	19,320,000	19,410,000	-90,000	
		経常増減	114,790,000	114,700,000	90,000	
コントラクトブリッジクラブの公認と育成	前年度並み	経常収益	0	0	0	AED 購入及びバリアフ
		経常費用	1,200,000	1,200,000	0	リー工事助成
		経常増減	-1,200,000	-1,200,000	0	地方リジョナル支援

2. 商品販売（収益事業等 2）

(1) 計画概要

コントラクトブリッジに関する書籍、競技用具等の販売を行う。在庫管理や販売方法など関連業務の効率化を図る。

(2) 収支総括	30 予算	29 予算	前年差	備考
経常収益	20,100,000	20,100,000	0	
経常費用	17,330,000	17,350,000	-20,000	
経常増減	2,770,000	2,750,000	20,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	30 予算	29 予算	前年差	備考
商品販売事業	前年度並み	経常収益	20,100,000	20,100,000	0	
		経常費用	17,330,000	17,350,000	-20,000	
		経常増減	2,770,000	2,750,000	20,000	

VI. 法人・管理部門

【平成 30 年度の計画概要】

(1) 計画概要

1. 会員・会友

① 会員・会友向け刊行物の発行

- ・ 会員・会友向けの以下の刊行物を編集・発行する。今後会報発行の頻度を削減することが可能か検討する。

『JCBL BULLETIN』（会報） 隔月刊年 6 回奇数月 1 日に発行、部数：7,700 部

『JCBL HANDBOOK』 毎年 5 月 1 日発行、部数：7,900 部

② JCBL ライブラリーの運営

- ・ 通常の新刊書に加えて、欠落していた図書の追加購入を行う。

③ キャンペーン

- ・ 会員・会友向けに以下のキャンペーンを実施する。

入会キャンペーン 前年度に引き続き新規入会者の会費を平成 30 年 3 月まで無料にする「新入会無料キャンペーン」及び、紹介者に QUO カードを進呈する「紹介キャンペーン」を実施する。

ビギナーズ杯招待 初心者プレイヤーに対する競技会参加奨励策として実施。各ブリッジセンターで開催されるビギナーズ杯に抽選で招待する。

2. 組織運営

- ・ 事務局業務の改善に引き続き取り組む。組織運営体制及び事務局の人員体制の変更を勘案して、業務の効率化を推進する。
- ・ 内部統制力の向上のため、連盟内システムの見直しと改善を図る。

3. 常設委員会

① 企画委員会

- ・ 企画委員会は、毎年度の予算及び事業計画の策定のほか、10 年後の連盟及び会員・会友のあり方を想定して事業部ごとの中期計画を策定することと、連盟のさまざまな制度の見直しと改革を使命とする。
- ・ 今年度も、引き続いて連盟の中長期的な財政基盤の充実と、現在のブリッジの競技環境の維持が最大の課題となる。連盟主催・公認競技会の参加者を増やす方策を中心にすえて、連盟の事業運営の安定化をめざす。
- ・ なお 2020 年に予定されている消費税率の変更に対応した競技会参加料の見直しについても着手する。

② センター協議委員会

- ・ センター協議委員会は、競技会と普及活動の拠点であるブリッジセンターと当連盟との協力関係の構築を使命とする。
- ・ 過去数年間で実現した連盟とブリッジセンターとの新しい会計基準の導入、対応の難しいプレイヤーに関するガイドラインの策定、体験教室・入門教室などに関する助成制度の見直しや追加などについて、今年度も引き続き見直しと拡充をはかる。

(2) 収支総括	30 予算	29 予算	前年差	備考
経常収益	16,740,000	17,370,000	-630,000	
経常費用	47,370,000	50,730,000	-3,336,000	
経常増減	-30,630,000	-33,360,000	2,730,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	30 予算	29 予算	前年差	備考
会員・会友 刊行物の発行	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	3,558,000	3,558,000	0	
		経常増減	-3,558,000	-3,558,000	0	
会員・会友 JCBL ライブラリー	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	5,522,000	5,522,000	0	
		経常増減	-5,522,000	-5,522,000	0	
会員・会友 キャンペーン	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	280,000	280,000	0	
		経常増減	-280,000	-280,000	0	
組織運営 管理部	縮小	経常収益	16,740,000	17,370,000	-630,000	
		経常費用	38,010,000	41,370,000	-3,336,000	
		経常増減	-21,270,000	-24,000,000	2,730,000	